

佐賀県鹿島市 *Press release*

報道機関 各位

部課名

教育総務課

件名	鹿島市立鹿島小学校 いのちの教育について(ご案内)
アピールポイント	学習テーマ 今、私たちは何か大切なことを忘れかけていませんか ～生きていることを実感する日々の生活をしよう～ 本校6年生に、元小学校校長 村岡 智彦先生が上記のテーマで講話をします。著書「母の背に」【佐賀新聞社 発行】をベースに、6年生にもわかりやすく命について考える話をさせていただきます。
説明	1 日時 令和6年1月12日(金) 14:05～ 2 内容 テーマについて 私たちは、豊かで便利な生活を手に入れたが、人と直接関わらなくても生きていけるような社会になってしまった。その結果、様々な社会問題を引き起こしている。子どもたちの世界も例外ではなく、いじめによる自殺、凍り付くような殺人、虐待などが続発している。私たちは、人として何か大切なことを忘れかけているのではないだろうか。… 3 指導の流れ (1)生と死をみつめて (2)命とは何か (3)なぜ、命は大切か (4)生きることについて 4 対象 6年生72名 5 学校情報 鹿島市立鹿島小学校 校長 橋本 良子 全校児童334名 〒849-1311 鹿島市大字高津原231番地イ 電話 0954-63-5255 担当者(教頭) 北原 智大
別添資料	<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし

## 本件に関する問合せ先

所属	鹿島市立鹿島小学校
氏名	北原 智大
TEL	0954-63-5255
FAX	63-5260
Mail	

<教職員や保護者、地域の皆様へ>

「命の教育」計画案

元小学校校長 村岡智彦

1 本日の学習テーマ

今、私たちは何か大切なことを忘れかけていませんか  
～生きていることを実感する日々の生活をしよう～

2 テーマについて

私たちは、豊かで便利な生活を手に入れたが、人と直接関わらなくても生きていけるような社会になってしまった。その結果、様々な社会問題を引き起こしている。子どもたちの世界も例外ではなく、いじめによる自殺、心が凍り付くような殺人、虐待などが続発している。**私たちは、人として何か大切なことを忘れかけているのではないだろうか。**

人間は、ヒト科の動物として生まれ、そして、周りの「ひと」や「もの」「こと」と関わり合いながら自立した一人前の人間へと成長していくのである。私たちは、その関わりの中で、生きていくために必要な資質（人間力）を身につけなければならない。そこで、子どもたちには、できるだけ本物に触れる体験と人と直に触れ合う場を提供する必要がある。

3 指導者の願い（子どもたちや大人に伝えたい事）と指導の流れ

(1) 「生と死」をみつめて

自己紹介を兼ねながら「命」に目を向けさせる

- 私の「朝の活動スケジュール」表の提示  
自然とのかかわり、食生活と運動、先祖との対話

(2) 「命」とは何か

- ① 死に直面した大病と交通事故
- ② 生に執着した理由 ⇒ 家庭の事情、やり残した仕事
- ③ 命とは ⇒ 神様から与えられた時間

(3) なぜ、命は大切か

- ① 継続性            ② 有限性            ※ 命のバトンを渡す役割

(4) 生きることについて

- ① 生きるとは ⇒ だれかと、何かをして、働くこと
- ② 命を大切にするとはいえ  
与えられた時間（人生）を ⇒ 生の実感（喜怒哀楽）あるものに  
（・共助の心    ・感謝の心    ・挑戦の心    ・参加の心）

※ 人との関わり、自然の恵みを感じる体験活動を取り入れることが大切